

# 3-G ゴヨウマツの巨木 (五葉松)

## ■ゴヨウマツの巨木評価

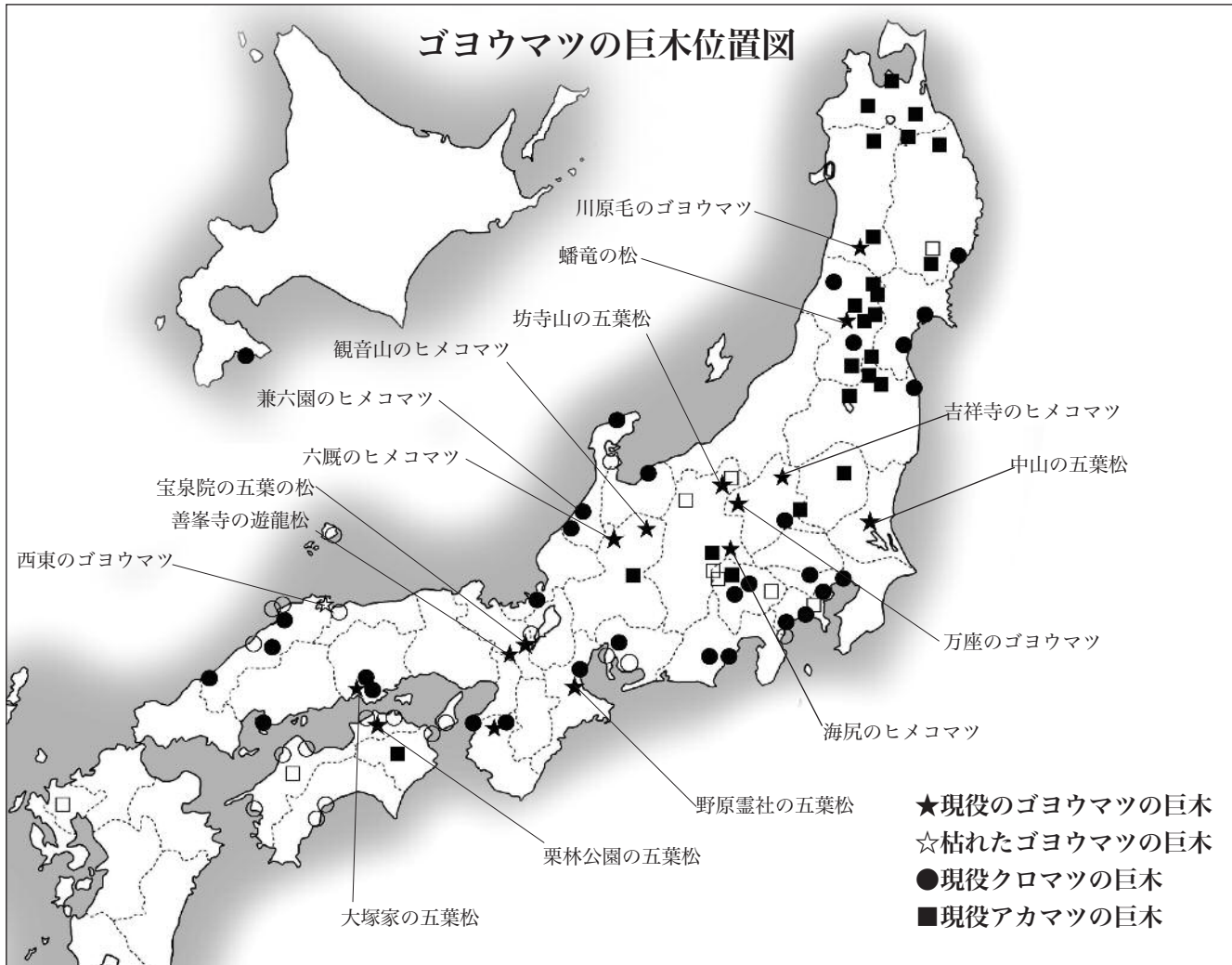
- A 仕立て松の場合、幹周おおむね 2m 以上で、枝張り長辺 30m 以上。  
天然樹形の場合、幹周 5m 以上、同等評価のゴヨウマツの巨木。
- B 仕立て松の場合、幹周おおむね 1~2m で、枝張り長辺 15~30m、  
天然樹形の場合、幹周 3~5m、同等評価のゴヨウマツの巨木。
- C B 評価以下のゴヨウマツの巨木。

## ■ゴヨウマツの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	万座のゴヨウマツ(天然) 写真 GM-001	5.05m	25m	群馬県吾妻郡嬬恋村千俣	なし
A	善峯寺の遊龍松(仕立て松) 写真 GM-002	1.5m(3分岐幹合計) 東西 26m 南北 5m	2.3m	京都府京都市西京区大野原小塩町	国
B	海尻のヒメコマツ 写真 GM-003	M3.84m(1.3m 2015)	18m	長野県南佐久郡南牧村海尻	県
B	栗林公園の五葉松(仕立て松) 写真 GM-004	3.5m	8m	香川県高松市栗林町	なし
B	蟠竜の松(仕立て松) 写真 GM-005	3.4m 東西 10m	8m	山形県西村山郡河北町谷地丙 28	県
B	大塚家の五葉松(仕立て松) 写真 GM-006	7.8m(分岐幹合計)	10m	岡山県倉敷市北畝 6-9-8	なし
B	宝泉院の五葉の松(仕立て松) 写真 GM-007	南北 11.5m 東西 14m	11m	京都府京都市左京区大原勝林院町	市
B	吉祥寺のヒメコマツ 写真 GM-008	M3.65m(1.3m 2015)	30m	群馬県利根郡川場村門前	県
B	川原毛のゴヨウマツ(天然) 写真 GM-009	M3.3m(1.3m 2014)	25m	秋田県湯沢市高松川原毛	なし
C	坊寺山の五葉松(天然) 写真 GM-010	不明	不明	長野県下高井郡山内町坊寺山	なし
C	六廐のヒメコマツ(古株更新) 写真 GM-011	約 1.2m(上部 3m 2007)	20m	岐阜県庄川村大字六廐軽岡国有林	なし
C	野原霊社の五葉松 写真 GM-012	M2.32m(1.3m 2012)	16m	三重県度会郡大紀町野原	なし
C	中山の五葉松(仕立て松) 写真 GM-013	幹周不明 枝張り東西 16m	5m	茨城県石岡市中山	市
C	観音山のヒメコマツ 写真 GM-014	4.95m	18m	岐阜県飛騨市神岡町釜崎 観音山	なし
C	兼六園のヒメコマツ(仕立て松) 写真 GM-015	M3.2m(分岐 0.3m 2008)	14m	石川県金沢市兼六町 1 兼六園	
枯死	西東のゴヨウマツ(仕立て松) 写真 GM-016	3.3m(分岐幹合計)	5.5m	鳥取県境港市渡町	



▼写真 GM-002 日本一見事なゴヨウマツ  
 よしみねでら ゆうりゆうのまつ  
**善峯寺の遊龍松**

遊龍松は境内の石垣に沿って北方に25m、西方に26m 鍵型になって伸びていた。残念ながら北方に伸びていた幹は枯れ5mで切断された。応仁の乱で壊滅していた善峯寺を、五代將軍綱吉の生母桂昌院が復興し、その記念にこの五葉松を寄進したと伝えられる。





◀写真 GM-001 天然日本一のゴヨウマツ  
まんざ  
万座のゴヨウマツ

天然のゴヨウマツの巨木で、ゲレンデ上部の尾根にあるが、スキー場が廃止されて、積雪期以外はアクセスできなくなった。単幹ゴヨウマツで、想定ではあるが、日本一のゴヨウマツである。

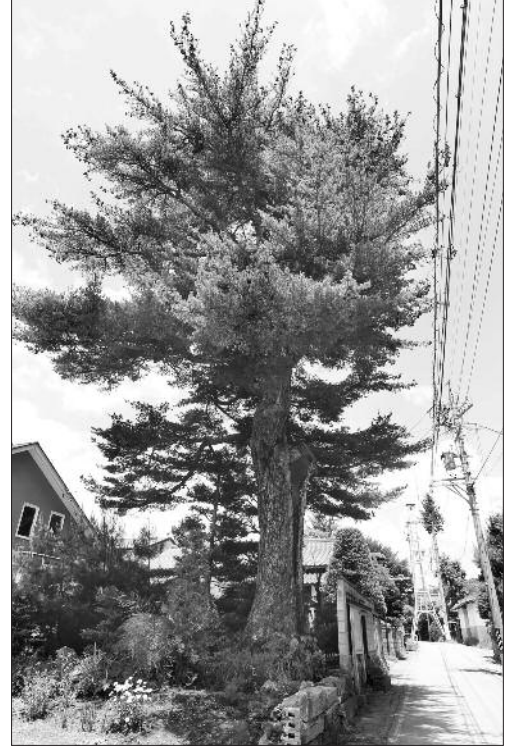
(写真・赤木道紘)



◀写真 GM-004  
りつりん ゴヨウマツ  
栗林公園の五葉松

翔月亭の露地の白砂にある根上り五葉松。天保4(1833)年、徳川11代将軍家斉(いえなり)から松平9代藩主頼恕(よりひろ)に贈った盆栽を、この地に植えたものが大きく成長したもの。1mくらい上がったところで木の幹に横筋が入っており、横筋から上はゴヨウマツ、下はクロマツである。つまりクロマツにゴヨウマツを接木したもの。稀な珍木だ。

(写真・Web画像)



▲写真 GM-003  
うみじり  
海尻のヒメコマツ

道路と井出氏の敷地の際に立つ単幹ゴヨウマツである。





▲写真 GM-005

ぼんりゅう  
蟠竜の松

実に奇怪な樹形のごヨウマツである。何本かに見えるが、実は全て繋がっている。中央の2分岐幹の根元から太い幹が地を這うように伸び、次第に斜上して立上<sup>びんぎょう</sup>がっている。その幹の長さは実に十数m伸びている。その姿があたかも竜が蟠踞して天に向かうように見える事から命名された。それにしても、いったいどのようにしてこの樹形を形成していったものだろうか。庭師の技量の高さや、文化の奥深さが偲ばれる名松である。(写真・パノラマ撮影)

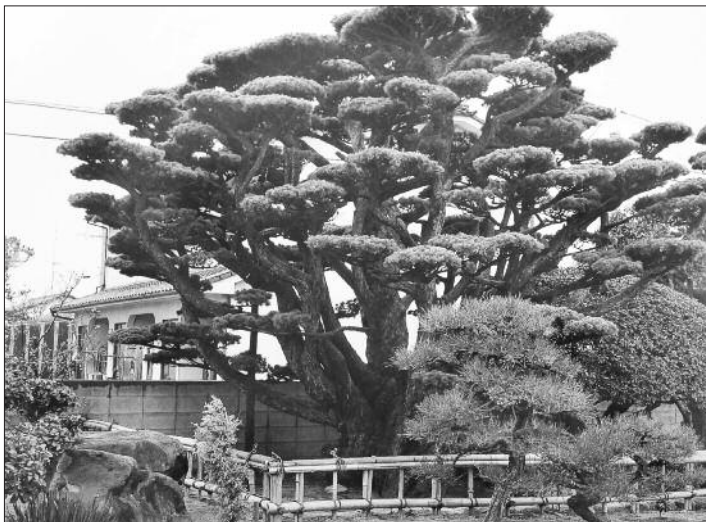


写真 GM-006 おおつけ  
大塚家の五葉松

大塚家の庭園にあり、根元近くで7分岐する。巨木DB幹周7.8mは分岐幹の合計周。M式では半分ほど。大塚家がこの地に住み着いたのは江戸末期で、後に玉野市八浜から五葉松を船で運んできて植えたという。仕立て松の一種である。(写真・渡辺典博)



写真 GM-007 ほうせんいん 宝泉院の五葉の松

額縁庭園と呼ばれるように、全面ガラス張りのホールから庭園を望み、その中心に根元分岐の巨大なゴヨウマツが鎮座する。(写真・Web画像)

写真 GM-010▶  
ぼうでらやま 坊寺山の五葉松

坊寺山登山道途中に立つ。根元近くから上部にかけて支幹が何本も立上がる複雑な樹形をしている。根元は根上状。(写真・Web画像)

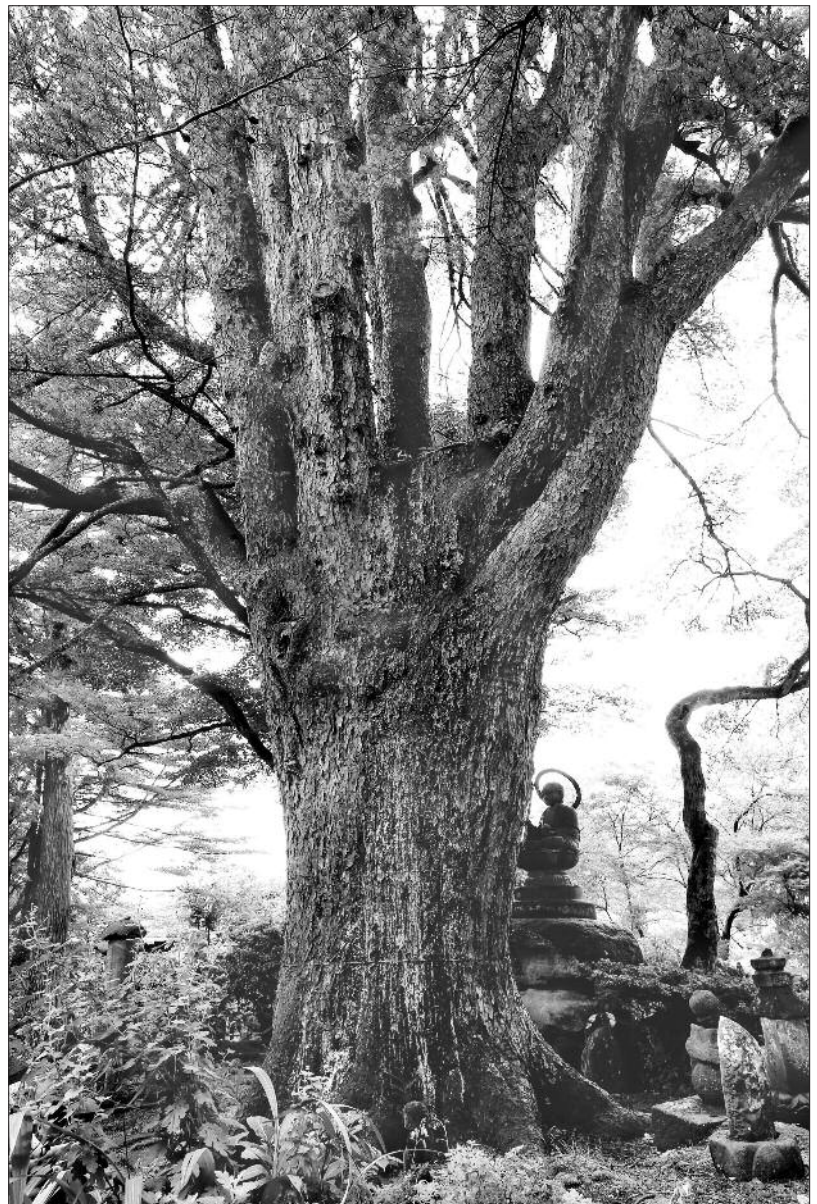




▼写真 GM-009

かわらげ  
川原毛のゴヨウマツ

川原毛のクロベのすぐ傍の藪の中に立つ単幹ゴヨウマツの巨木である。



▲写真 GM-008

きつしょうじ  
吉祥寺のヒメコマツ

境内の仁王門前に立つ単幹ゴヨウマツの巨木である。5m程で多数に分岐し、大きく広がる樹形は、幹周以上の迫力を感じる。

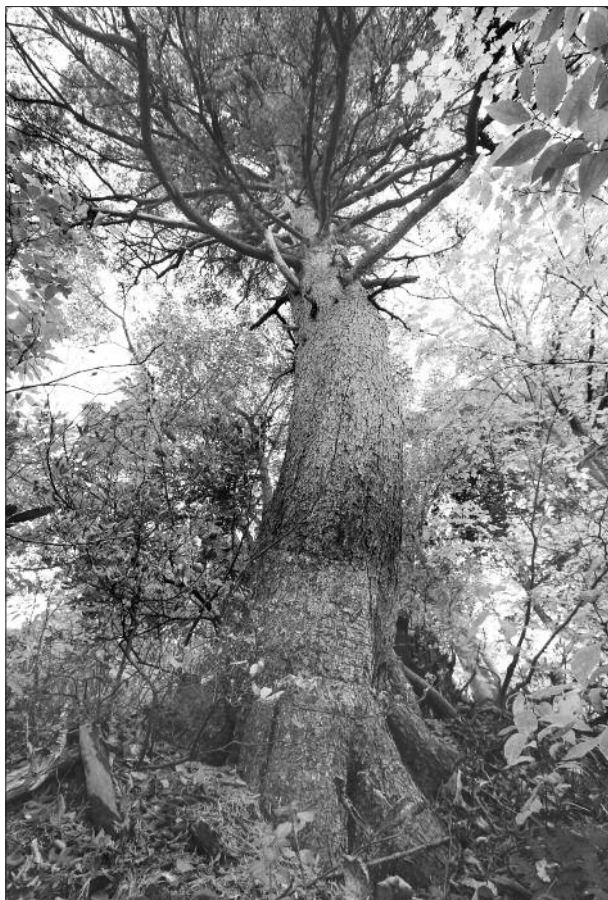
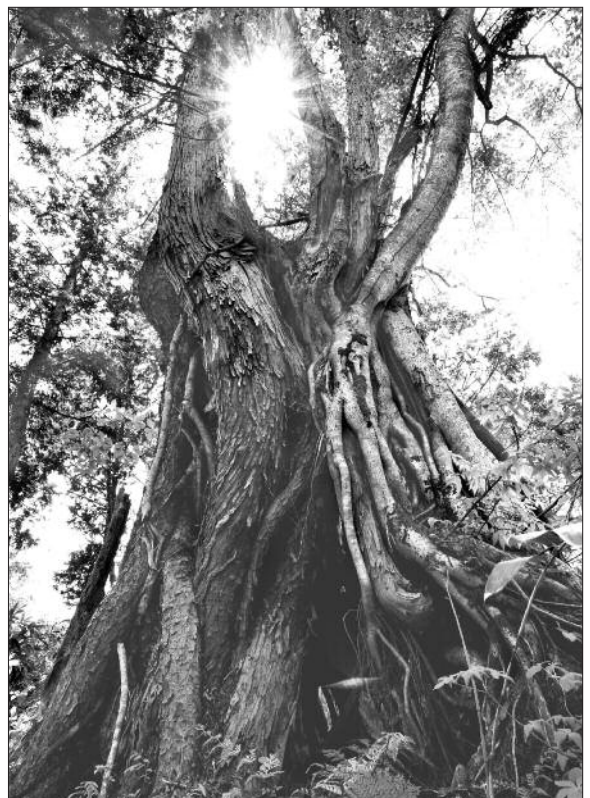


写真 GM-011▶

むまい  
六廐の  
ヒメコマツ

巨木 DB の幹周 6.25m で森の巨人たち 100 選に選ばれたヒメコマツだが、実際は巨大な古株に着生したヒメコマツ。(写真では左の分岐幹) 他に広葉樹が何本も着生して、異様な樹形を呈している。古株更新の例としては貴重であるが、少し幹が小さい。





◀写真 GM-012  
のほられいしや  
野原霊社の五葉松

見事な単幹五葉松だ。遠くから見る樹形もよい。高台にある地元の信仰を集めている霊社の境内にある御神木で、道路寄りの片隅に立っている。老木だが、地元民の手入れが行き届いて元氣だ。



◀写真 GM-013  
中山の五葉松

小松崎家の庭にある。主幹は斜上し、傘が重なるように枝葉が美しく剪定されている。この五葉松は、先祖が伊勢神宮に参拝した折り、その記念として持ち帰ったものという。(写真・石岡市提供)

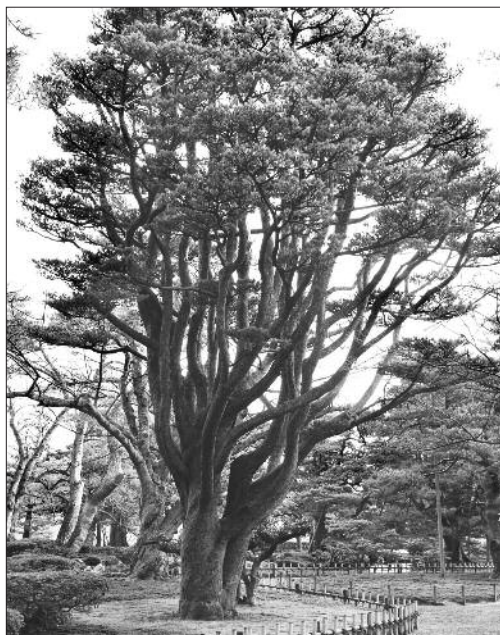
▲写真 GM-014  
かんのんやま  
観音山のヒメコマツ

5分岐のゴヨウマツで、合体木かは不明である。(写真・Web 画像)



▼写真 GM-015  
けんろくえん  
兼六園のヒメコマツ

0.5m で2分岐し、上部で多数に分岐し、箒状の樹形を呈している。台杉技術で仕立てたものか。



▼▶写真 GM-016  
さいとう  
枯死・西東のゴヨウマツ

キタゴヨウはゴヨウマツの変種だが、巨木分類では区別しない。渡部家の言い伝えによれば、文政年間(1820頃)に北前船の乗組員から買い求めたという。根元に数本に分岐し、傘型の美しい樹形をしていた。樹冠の占有面積は200㎡に及んでいた。2010年頃に枯死。(写真・Web 画像)

